

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アシスト あおぞら園		
○保護者評価実施期間	R 6年 4月 30日	～	R 7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 20	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	R 6年 4月 30日	～	R 7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 0	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	R 7年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・事業所内に言語聴覚士が配置されている。現場での対応など専門職員に相談できる環境にある。また、法人内で近隣の事業所に言語聴覚士と、公認心理師が配置されているので、気になる事があったときなどにすぐに相談できる環境にあります。	・困ったことがあれば、すぐに相談ができる環境がある。利用者の気になる点を実際に見てもらい確認し相談することができる。支援の方法やご家族や本人の思いに応えられるようにするために、将来的な目標と先ずは取り組むべきことに分けて専門的知識を取り入れての支援を行うことができます。	・直接支援のほか、専門職員が事業所内研修を実施することで、スタッフの理解を深め相談しやすい雰囲気を作っています。 ・事業所内で困ったことがあれば、実際の支援での利用者の様子を見て頂き、支援の方法を専門的知識のもと、各々にあった支援方法を模索し、実施を行っていきます。
2	・法人の事業所が近隣にあります。年齢ごとに分かれており、年齢の近いお子さんとの関わりを重視しております。未就学の事業所・小学生中心の事業所・中高生中心の事業所に分かれています。	・年齢ごとに分かれているため、体格差がないため、安心して過ごすことができます。また、避難訓練や、クリスマス会等で法人内の事業所と関わることができます。また、2階には生活介護の事業所があり、成人した方との関わりを持つことができます。	・年齢に近いことにより、自然とコミュニケーションを学び、社会性をはぐくむことができます。 ・同年齢のお友達と同じように活動に参加することで、自分にもできることがあると実感し、自信につながります。 ・異なる個性を持つ子ども達と触れ合うことで、多様性を理解し、尊重する心をはぐくむことができます。みんなが一緒に楽しく学び、成長できる環境をこれからも作っていきます。
3	・運動療育にも力を入れています。ライフキネティックを支援プログラムに入れています。	・ライフキネティックの支援プログラムを活用することで、脳内のネットワークを大きく改善し、シナプスの形成を促す効果も期待できます。 また、視覚や聴覚に関するトレーニングも多く含まれており、見たり聞いたりし、判断して、動くという一連の動作の改善と、「見る」「聞く」という機能の改善も期待できます。	・プログラムの内容をより多様化し、興味関心を引き出していきます。また、法人内の事業所と連携を図り、支援プログラムのアイデアを出して、支援を行った発表を行っています。 ・できなくても、やることに意義があることをしっかりと伝えて、できたことも大切だが、それに向き合った姿勢をしっかりと褒めて伸ばしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者会や、ペアレントトレーニング等が十分に行われていない	・不定期で保護者会などの開催に向けての働きかけはしていたが、十分な内容を提供することができず開催に至っていない。また日程の調整、デイのサービス提供時間や保護者の就労などで難しい面が見られている	・イベントなどを通してご家族同士の交流会や支援者の事を知る機会を確保できるような場を設けていきます。 ・専門職員の知識などをご家族と一緒に学ぶ機会を持ち、ご本人が過ごしやすい環境を整えるようにご家族と一緒に支援を考えていきます。
2	・異年齢交流や、障害のない方との交流が少ない。	・年齢別に分かれていることは利点でもあるが、異年齢の子との関わりが少ないため、上の子が下の子の面倒を見る力を養っていくことが弱い。また、障害のない方との交流が少ない。多様性の時代ではあるが、それを認めて、関わりを持つことが少ない。	・地域のイベントやボランティア活動に積極的に参加することで、様々な年齢層の方や背景を持つ人と出会える機会を増やしていきます。 ・世代間交流や障がい者と障害を持っていない方との交流を目的としてイベントを定期的に開催することで、自然な出会いの場を設けていきます。
3	・法人内で専門職の配置がない事業所がある	・今後も求人をかけて、専門職員の配置を行っていきけるように支援を行っていく。 ・法人内に専門職員がいるため、相談や支援方法について助言を頂くことは可能になっている。	・法人内の専門職員間で連携を取りながら、各々の状況に合わせて、継続して必要な専門的なサポートを受けられるようにしていきます。 ・専門職員の知識やスキルを職員が学ぶ研修を実施することで、専門的知識を身につけ、職員自身もより適切なサポートを提供できるようになります。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アシスト あおぞら園		
○保護者評価実施期間	R 6年 4月 30日		～ R 7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	R 6年 4月 30日		～ R 7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R 7年 3月 31日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・事業所内に言語聴覚士が配置されている。現場での対応など専門職員に相談できる環境にある。また、法人内で近隣の事業所に言語聴覚士と、公認心理師が配置されているので、気になる事があったときなどすぐに相談できる環境にあります。	・困ったことがあれば、すぐに相談ができる環境がある。利用者の気になる点を実際に見てもらい確認し相談することができる。支援の方法やご家族や本人の思いに伝えられるようにするために、将来的な目標とまずは取り組むべきことに分けて専門的知識を取り入れての支援を行うことができます。	・直接支援のほか、専門職員が事業所内研修を実施することで、スタッフの理解を深め相談しやすい雰囲気を作っています。 ・事業所内で困ったことがあれば、実際の支援での利用者の様子を見て頂き、支援の方法を専門的知識のもと、各々にあった支援方法を模索し、実施を行っていきます。
2	・法人の事業所が近隣にあります。年齢ごとに分かれており、年齢の近いお子さんとの関わりを重視しております。未就学の事業所・小学生中心の事業所・中学生中心の事業所に分かれています。	・年齢ごとに分かれているため、体格差がないため、安心して過ごすことができます。また、避難訓練や、クリスマス会等で法人内の事業所と関わることができます。また、2階には生活介護の事業所があり、成人した方との関わりを持つことができます。	・年齢が近いことにより、自然とコミュニケーションを学び、社会性をはぐくむことができます。 ・同年齢のお友達と同じように活動に参加することで、自分にもできることがあると実感し、自信につながります。 ・異なる個性を持つ子ども達と触れ合うことで、多様性を理解し、尊重する心をはぐくむことができます。みんなが一緒に楽しく学び、成長できる環境をこれからも作っていきます。
3	・運動療育にも力を入れています。ライフキネティックを支援プログラムに入れています。	・ライフキネティックの支援プログラムを活用することで、脳内のネットワークを大きく改善し、シナプスの形成を促す効果も期待できます。 また、視覚や聴覚に関するトレーニングも多く含まれており、見たり聞いたりし、判断して、動くという一連の動作の改善と、「見る」「聞く」という機能の改善も期待できます。	・プログラムの内容をより多様化し、興味関心を引き出していきます。また、法人内の事業所と連携を図り、支援プログラムのアイデアを出して、支援を行った発表を行っています。 ・できなくても、やることに意義があることをしっかりと伝えて、できたことも大切だが、それに向き合った姿勢をしっかりと褒めて伸ばしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者会や、ペアレントトレーニング等が十分に行われていない	・不定期で保護者会などの開催に向けての働きかけはしていたが、十分な内容を提供することができず開催に至っていない。また日程の調整、デイのサービス提供時間や保護者の就労などで難しい面が見られている	・イベントなどを通してご家族同士の交流会や支援者の事を知る機会を確保できるような場を設けていきます。 ・専門職員の知識などをご家族と一緒に学ぶ機会を持ち、ご本人が過ごしやすい環境を整えるようにご家族と一緒に支援を考えていきます。
2	・異年齢交流や、障害のない方との交流が少ない。	・年齢別に分かれていることは利点でもあるが、異年齢の子との関わりが少ないため、上の子が下の子の面倒を見る力を養っていくことが弱い。また、障害のない方との交流が少ない。多様化の時代ではあるが、それを認めて、関わりを持つことが少ない。	・地域のイベントやボランティア活動に積極的に参加することで、様々な年齢層の方や背景を持つ人と出会える機会を増やしていきます。 ・世代間交流や障がい者と障害を持っていない方との交流を目的としてイベントを定期的に開催することで、自然な出会いの場を設けていきます。
3	・法人内で専門職の配置がない事業所がある	・今後も求人をかけて、専門職員の配置を行っていくように支援を行っていく。 ・法人内に専門職員がいるため、相談や支援方法について助言を頂くことは可能になっている。	・法人内の専門職員間で連携を取りながら、各々の状況に合わせて、継続して必要な専門的なサポートを受けられるようにしていきます。 ・専門職員の知識やスキルを職員が学ぶ研修を実施することで、専門的知識を身につけ、職員自身もより適切なサポートを提供できるようになります。